

跳ね上がる水しぶきが暑さを和らげる、青少年会館の前にある噴水。クールシェアスポットの一つとして、涼しさを届けます。市は環境に配慮しながら、快適に過ごすための取り組みを始めています。

広報 2018 8 月
No.1108 第1金曜日号

ひらつか

涼を感じて夏を過ごす



目次

1～3面…**特集**賢く涼しく夏を過ごそう…地球温暖化防止に取り組みながら、夏を快適に過ごすための取り組みを紹介します。
4～7面…募集・スポーツ・健康と福祉・お知らせ・「みんなの力」
8面…ヒラツカルチャー「MOTTO図書館」



平塚市の人口と世帯数
<平成30年7月1日現在()内は前月比>

人 口 258,038人…(+30)
世帯数 110,817世帯…(+120)



一人一人が賢い選択 クールチョイス

COOL CHOICE

地球温暖化を防ぐために、一人一人に環境に優しく、賢い選択を促すのがクールチョイス運動です。

目的は二酸化炭素などの温室効果ガスを削減することです。世界の平均気温は、過去130年間で約1度上昇。また、今年、日本国内の最高気温を更新するなど、暑い日が続きました。温暖化対策をしなかった場合、今世紀末には最高気温が30度以上になる真夏日が、東京では年間103日、1年の3割近くになると予測されています。未来の環境のために、今、行動を起こす必要があります。

賢く涼しく夏を過ごそう

環境に優しく、かつ快適に過ごすためのクールチョイス運動。市では、三つの取り組み事業を中心に進めています。この夏、身近な場所で温暖化対策を始めてみませんか。

問 環境政策課 ☎21-9762



涼しさを共有して快適に

夏場の日中、エアコンの消費電力は家庭全体の半分以上を占めています(下グラフ)。しかし、暑さや熱中症対策にエアコンは欠かせません。そこで、消費電力や排出される二酸化炭素を削減するため、市ではクールシェアを始めています。

市内37のシェアスポット

クールシェアとは、エアコンの使用台数を減らして一部屋に集まったり、公共施設などを利用することで涼しさを共有したりする取り組みです。市では、図書館、美術館などの施設や、噴水で涼しさを感じることもできる公園など、20カ所をクールシェアスポットに指定。ほかにも市内事業所の協力を得て、商業施設など17カ所を利用することができます。

気軽に涼める場所を提供

「少しでも地域に貢献できればと思い、クールシェアスポットに参加しています」と話す、東京ガスライフバル湘

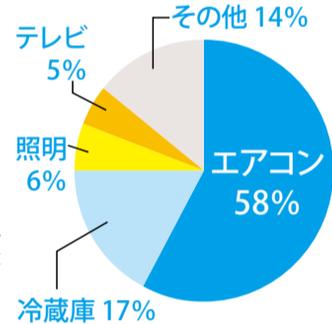


スポッにも掲示しているクールチョイスひらつかのポスター

夏の日中の消費電力

午後2時頃の在宅世帯の平均

参考 資源エネルギー庁「家庭の節電対策メニュー」平成25年4月



「どなたでも気軽に利用してください」と呼び掛ける柏崎さん

南茅ヶ崎 平塚店(宮松町15-4)の柏崎秀夫常務取締役。同店ではショールームを開放し、立ち寄った人に麦茶を提供しています。

昨年からの取り組みを始めましたが、「まだまだスポットとして知られていないので認知度を上げていきたいですね」と現状を話します。「当店のお客さま以外の方は入りにくいかもしれません。でも、せっかくの取り組みですので、ぜひ気軽に利用してほしいです」と呼び掛けます。市内のスポット一覧は市ウェブなどで確認できます。

クイズラリーで環境を楽しく学ぶ

次の六つのクールシェアスポットでは、クイズラリーを実施しています。クイズに3問以上回答した市内在住・在勤・在学の方へ抽選で記念品をプレゼントします。

実施期間 9月30日(日)まで。応募期間 10月31日(水)まで。スポットにある応募用紙をポストに投函してください。

- 1 美術館
- 2 中央図書館
- 3 博物館
- 4 青少年会館
- 5 市役所本館
- 6 旧横浜ゴム平塚製造所記念館



環境を学べるクイズに挑戦しませんか

市民・事業者・市が共に行動

「市では、家庭で取り組むCO2削減プランや夏休みに開く環境フェアなどを通して、主に個人への温暖化対策の啓発を進めてきました」と話す環境政策課の高橋翔主査。「しかし、温暖化対策は個人一人一人ではなく、市全体の問題として認識し取り組む必要があるため、昨年からの『クールチョイスひらつか』を始めました」。

平塚らしさを盛り込む

クールチョイスひらつかは、国が推奨する取り組みのほか、市ならではの特色を盛り込んでいます。「例えば、ライトダウンキャンペーン(3面下段)では、国が決めた日程以外にも、市独自の実施日を設けています。さらに、その日を博物館で開く『星を見る会』と同日にすることで、街の明かりで星が見えにくく

くなる『光害』を軽減でき、星空観察に適した状況になると考えました。市の事業同士での相乗効果を期待しています」と強調します。

市の温室効果ガス削減の目標は、2026年までに、2013年比で18.5%の削減。数値は、市内の商業施設や事業所などの床面積、製造業の出荷額、人口、ごみの焼却量、車の台数など多方面から推計します。「温暖化対策は、一人一人が意識しなければ進みません。クールチョイスひらつかを推進することで、温暖化対策に関する意識を高め、目標を達成したいと考えています」と高橋主査は意気込みます。

小さなことでも気軽に一歩を

地球温暖化は大きな課題ですが、対策に重要なのは日々の心掛けの積み重ねです。「電気のスイッチを小まめに切るなど、個人の行動による効果は小さなものです。でも積み重ねれば、大きな効果につながります。小さなことでも心掛けて続けてほしいです。ライトダウンやクールシェアなどの、明るさや涼しさを共有する取り組みは、人とのつながりを感じながら、楽しんでもらいたいですね」と期待を寄せます。



「子どもたちも環境への意識を高めてほしいです」と話す高橋主査(左)

Choice 2

地球を温めない電気自動車

私たちの暮らすまちの環境のために、さまざまな手段を選ぶクールチョイス運動。「温室効果ガスを排出しない」というのも選択肢の一つです。

近年、ガソリン車から環境に優しい電気自動車へと転換していく取り組みが加速しています。電気自動車は電気で動くので温室効果ガスである二酸化炭素を排出せず、温暖化対策への期待が寄せられています。市では、電気自動車を製造している日産自動車と共同で、電気自動車の試乗体験など、普及への取り組みを始めています。

体験して良さを実感

「将来の持続可能な社会を目指すため、私たちは電気自動車を造っています。平塚市

電気も地産地消

市役所本館の北側にある電気自動車の急速充電器。実はこの充電器に使われている電気は、市の環境事業センターでごみの焼却時に出る熱を利用してつくられた電気です。食べ物だけでなく、電気も地産地消に取り組んでいます。

温暖化を防ぎ 災害時にも活用

「環境にも貢献できるし、音が静かで落ち着いて運転できるところが私に合っていますね」と話すのは、6年前から電気自動車を利用している重田新一さん。「電気で動く自動車は初めての経験。購入当時は、充電器がどこにあるのかがいつも気になっていました。今はだいぶ慣れたので、安心して利用していますよ」と笑顔を見せます。

現在は、主に市内や近距離での移動に利用している重田さん、電気自動車の車以外の役割にも期待しています。「車に電気をためておくことができるので、災害などによる停電時には電源としても活用できますよね。お湯を沸かしたり、明かりをつけたりできると思うと心強いです」とうなずきます。



市役所前の急速充電器を利用する重田さん。「充電器の数もだいぶ増えてきましたね」と話します

7月21日・22日に市役所本館などで開いた環境フェアでも試乗会を実施。体験者を案内する戸井田さん(左)



いすね。私たちが開発を進める中で、

「環境に良いという理由だけでは、なかなか選んでももらえません。静かさや操作性の高さといった電気自動車ならではのモーターで動く気持ち良さも感じて欲しいですね。私たちが

の取り組みも同じ方向を向いていると感じ、共同で試乗会などに取り組んでいます」と話す日産自動車、日本EVS事業部の戸井田聡さん。「何よ

り、近年、電気自動車への注目が集まり、多くの方が『どんなものだろう?』と感じているのではないのでしょうか。実際に乗っていただくことが、

運転者の操作が車に瞬時に伝わり、意のままに運転できるという電気自動車の魅力を改めて認識しています」。

利用環境の整備も重要

「私たちが電気自動車を発表した当時、全国に充電器は500基ほどしかありませんでした」と振り返る戸井田さん。電気自動車の普及には、充電器などの利用環境も併せて充実させていく必要があります。「そのためには、自治体や、理念に賛同してもらえる企業の方々の協力が不可欠です」。

現在、充電器は約3万基に増加。また過疎地であってもほとんどの場所で電気が通っているため、近年減少しているガソリンスタンドに比べて、充電器はどこでも設置できます。「充電ってどうすればいいの?」と疑問を持っている方は多いと思います。充電スポットなどのインフラと共に、新しい技術の使い方を分かりやすく伝えていくことが重要だ」と強調します。

Choice 3

8月10日(金)は明かりを消して地球を思う ライトダウンキャンペーン



▲ライトダウンキャンペーンを再現する高橋さん。並べたキャンドルは、店舗で出た廃油を再利用して作りました
▶店内の電気を全て消しても、キャンドルがカウンターを明るく照らします

家庭や職場、商業施設などの電気使用量を削減し、温暖化対策への意識を強める「ライトダウンキャンペーン」。午後7時～8時30分の間、室内外の照明を可能な範囲で消灯します。一般家庭だけではなく、事業者にも参加を呼び掛け、今年は33団体が実施します。

昨年参加したブラジル料理店「リガール」(紅谷町10-13)。店長の高橋哲将さんは、県の地球温暖化防止活動推進員を務めているほか市の環境ファンクラブでも活動しています。

昨年のキャンペーン当日は、店内の照明を全て消し、キャンドルをともしました。「キャンペーンを店頭のパスターで周知しました。初めての経験で手探りで進めましたが、キャンドルに照らされた店内の光景は心に残っています」と笑顔を見せます。同店は今年もキャンペーンに参加します。「昨年のキャンペーン時には、訪れたお客さんと一緒に『夏だけでなく冬にもあればいいのに』と話していました。年1回だけではなく、定期的実施して、市民に根付いていくといいですね」と期待を込めます。

皆さんも8月10日、ライトダウンをしませんか。

